

指導資料

鹿児島県総合教育センター

音楽 第42号

—小学校対象—

平成24年4月発行

小学校音楽科における学習評価の在り方 —評価規準の設定を中心に—

小学校学習指導要領では、「表現」と「鑑賞」の活動に、共通に指導する内容として〔共通事項〕が示されており（P2表2参照）、この〔共通事項〕を支えとして、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育成することが重視されている。「力強さが伝わるように表現したい。」「ここでは、音の重ね方を工夫したらきらきらする感じを表せる。」といった、子どもの思いや意図を十分に引き出すためには、音楽活動に取り組む子どもの姿から学習状況を適切に見取っていく必要がある。

そこで本稿では、音楽科における評価の観点と趣旨に基づいて、評価規準の設定の仕方を中心に、表現領域の事例を交えながら述べる。

1 評価の観点とその趣旨

(1) 「思考・判断・表現」に係る観点

学校教育法の一部改正を受けて、学習指導要領の総則には学力の三つの要素が示されている。学習評価の観点はこのことを踏まえて整理され、音楽科における観点も設定された（図1）。

音楽科の改訂の趣旨には、思考・判断する力の育成を一層重視することが明記されている。このことから、「思考・判断・表現」に係る観点として、「音楽表現の創意工夫」及び「鑑賞の能力」の観点を位置付けたことが、音楽科における学習評価の改訂のポイントである。

子どもが、試行錯誤しながら表現を創意工夫する力や、楽曲を聴いてその特徴

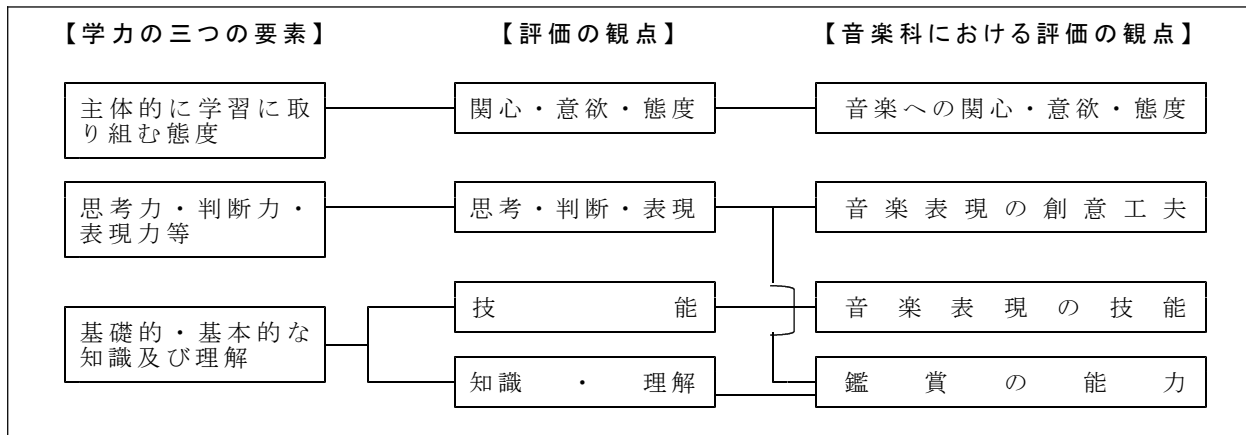


図1 学力の三つの要素と評価の観点

やよさを理解したり、自分の意見を述べたりする力は、音楽科の学習に即した思考力・判断力・表現力と言える。

(2) 「音楽的な感受」に係る観点の趣旨

図1の音楽科における四つの観点には、これまでの観点にあった「音楽的な感受」が示されていない。しかし、「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の観点には、〔共通事項〕(表2のアに関する内容)、即ち、音楽的な感受に相当する指導内容を示してある(表1の下線部)。よって、これらの観点それぞれにおいて、音楽的な感受に係る評価を行うことになる。

鑑賞領域では、これまで「音楽的な感受」の観点で見取っていた力も含めて、子どもが自分なりに音楽のよさや価値などを味わって聴くことができるような力を育むこととしており、こ

した学習状況を「鑑賞の能力」の観点で評価することになる。このことにより、「音楽的な感受」と「鑑賞の能力」の違いが分かりにくいといった、従前の課題の解消を図ることができる。

音楽的な感受は、音楽科の目標にある「音楽に対する感性」につながり、表現及び鑑賞の活動の根底に関わるものである。〔共通事項〕との関連を十分に図り、指導を工夫することが大切である。

2 評価規準の設定と評価に基づく指導

平成23年3月、国立教育政策研究所から出された「評価方法等の工夫改善のための参考資料」では、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視するよう示されている。

音楽科においても、「指導に生かす評価」

表1 音楽科の評価の観点及びその趣旨

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。</u>	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。</u>

表2 〔共通事項〕

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。		
ア 音楽を形づくっている要素のうち、次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。		
(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素	(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素	(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
(イ) 反復、問いと応えなどの音楽の仕組み	(イ) 反復、問いと応え、変化などの音楽の仕組み	(イ) 反復、問いと応え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み
イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。		

を目指し、四つの観点に基づく観点別学習状況の評価を一層進めていく必要がある。

題材の評価規準を設定する際は、学習のねらいや内容に照らしつつ、平成22年11月に、同じく国立教育政策研究所から公表された「評価規準の作成のための参考資料」の、「評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」（以下、「評価規準の設定例」）を活用すると、実際の学習活動に即した評価規準を設定する際の参考になる。

ここでは、評価規準の設定について、表現領域の中の「音楽づくり」分野から、第5学年の題材を取り上げ、具体的な事例を示す。

(1) 題材名

「曲のまとまりに気をつけて音楽を味わおう」

(2) 題材の目標

音楽の仕組みや旋律の特徴に関心を持ち、それらを生かしながら、自分の思いや意図をもって旋律づくりに取り組むことができる。

(3) 主な学習内容

教材「静かにねむれ」において、四つの旋律の特徴を調べ、気付いたことを参考にしながら、旋律づくりをする。

(4) 題材の評価規準

表3は、本題材における評価規準例であり、下線部は、「評価規準の設定例」を基に、教材に則した音楽を形づくっている要素などを示し、記述してある。

例えば、「評価規準の設定例」の中の「音楽表現の技能」においては、「いろいろな音楽表現から得た発想を生かし、即興的に表現している。」と示してある。

授業では、教材「静かにねむれ」の旋律の特徴を参考に、旋律をつくり表現することから、本題材の評価規準例では、「続く感じや終わる感じといった『静かにねむれ』の旋律の特徴から得た発想を生かし、即興的に表現している。」と表した。

(5) 1単位時間の評価規準

表4（P4）は、本題材における指導と評価の計画例である。

題材の評価規準を、1単位時間の評価規準として用いている。1単位時間ごとに、1、2項目に絞り、効果的・効率的に評価できるように配慮するとともに、評価規準の配置に関連をもたせ、工夫している。

例えば、「音楽への関心・意欲・態度」は、A①とA②として題材の導入時と終末時に配置している。これらは、学

表3 「曲のまとまりに気をつけて音楽を味わおう」の評価規準例

A 音楽への関心・意欲・態度	B 音楽表現の創意工夫	C 音楽表現の技能
① <u>「静かにねむれ」の旋律の特徴や音の動きを参考に、旋律づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。</u> ② <u>いろいろな音楽表現に関心を持ち、自分たちでつくった旋律を表現する学習に主体的に取り組もうとしている。</u>	① <u>続く感じや終わる感じといった「静かにねむれ」の旋律の特徴を感じ取りながら、どのような旋律をつくるかについて発想をもっている。</u> ② <u>音の動きやリズムなどを工夫し、つくる旋律について自分の思いや意図をもっている。</u>	① <u>続く感じや終わる感じといった「静かにねむれ」の旋律の特徴から得た発想を生かし即興的に表現している。</u> ② <u>音の動きやリズムなどを工夫した自分たちの旋律を表現している。</u>

習活動に合わせて表記してあるが、第1時での学習への意欲や態度が、第4時ではどのように変容したか、主体的に旋律づくりに取り組もうとする状況の変化を把握することができる(図2)。

(6) 評価に基づく指導の在り方

本事例の第2時を例に挙げると、表3のB①とC①の評価規準に照らして「おおむね満足できる状況」を見取る。

旋律づくりに対して「自分の考えをもっているか」、「即興的に表現しているか」、などについて、演奏の様子や発言の内容から把握する。

これらの見取りを基に、「十分満足

できる状況」にある子どもに対しては、「様々な方法を試しながら、よりよい表現をしている。」といった見取りの判断のポイントをもち、より完成度の高い旋律に仕上がるように、その子どもに応じた助言や称賛をすることが大切である。

「努力を要する状況」と判断されそうな子どもに対しては、「教師と一緒に旋律づくりの手順を確認しながら、表現している。」といった見取りの判断のポイントをもって、子どもが楽しく旋律づくりに取り組めるような指導に努める必要がある。

表4 「曲のまとまりに気をつけて音楽を味わおう」の指導と評価の計画例(全4時間)

	主 な 学 習 活 動	評価規準及び評価方法
第1時	<p>旋律づくりのポイントを見つけよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「静かにねむれ」の旋律の特徴から、旋律づくりのポイントを調べる。 旋律づくりのポイントに気付き、見通しをもつ。 旋律づくりの手順を知る。 手順を確認しながら試しに全員で旋律をつくる。 	A-① 発言内容・ワークシートの記入・行動の観察
第2時	<p>旋律をつくってみよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 旋律づくりのポイントと手順を確認する。 グループごとに旋律をつくる。 できた旋律をリコーダーで演奏し修正する。 	B-① 旋律づくり・発言内容 C-① 演奏の聴取・記譜
第3時	<p>中間発表で課題を見つけ、修正しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> できた旋律の中間発表をする。 課題を見つけて修正する。 完成した旋律の演奏の練習をする。 	B-② 旋律づくり・発言内容 演奏の聴取
第4時	<p>つくった旋律をおたがいに発表し合おう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 完成した旋律を発表する。 学習を振り返り、まとめをする。 	A-② 発言内容・行動の観察 振り返りカードの記述 C-② 演奏の聴取



○ 旋律づくりに挑戦して、思ったことや感じたことを書きましょう。

あまり旋律がりきしないからむずかしいと思、たけい、作り方にも特ちょうを見つけ、ポイントもあるはずだから、ポイントかわければうまくいかなかった。
他のチームは、はかんだように終りなめらかにしり終ったり、他のチームの発表をきくのとてて察しがた。

旋律づくりを話した。あまりできなかったけど、なんとが、いいのができた。冬休みに自分で旋律を作りたい。

(鹿児島市立大龍小学校 米村裕美教諭の実践を基に作成)

評価は子どもを見取る窓口であり、子ども一人一人を見つめながら、日頃の授業実践を常に振り返り、問い直すことが大切である。

—引用・参考文献—
 ○ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』平成20年 教育芸術社
 ○ 国立教育政策研究所『評価規準の作成のための参考資料』平成22年
 ○ 国立教育政策研究所『評価方法等の工夫改善のための参考資料』平成23年

(教職研修課)

図2 学習の振り返り

